第４回検討会　ゾーニング検討　　振り返り資料（Bグループ）

資料3-2（P.1）

第4回検討会における指摘事項		基本構想における「基本的な考え方」	
		「施設機能」	「基本的な役割」
気軽な利用の促進	• 来館者に興味を持ってもらい、また気軽に立ち寄ってもらえるように、展示室で何が催されているか、屋内外からわかるようにしたい • 空間的に区切られた現施設の「②展示室」は稼働率が低く、同様の空間をエントランスに配置しても、市民の目に留まらないのでは	鑑賞 発信	日常利用 多機能連携 アクセシビリティ
諸室と共用部の一体利用	• ②展示室：不使用時は共用部にできるなどフレキシブルに使えると良い • ⑥小ホール：②展示室と同様、人を集める機能である	• ②展示室：①エントランスに入るとすぐ目に入る位置 • オープンな空間内に展示する仕組み	活動 交流	多機能連携 アクセシビリティ
活動や滞在があふれ出す共用部	• 1階：市民活動の場として広く使いたい • 共用部：勉強や休憩など気軽に滞在可能な場 アーケードのように市民が行き交う場 • 諸室の活動を見せ、共用部がにぎやかに • 展示空間内に光が入ると、展示品が劣化する • 圧迫感や閉塞感を軽減したい	• ②展示室：①エントランス付近に配置し、必要に応じ一体的に利用 • ⑥小ホール：①エントランスとの一体利用が可能な仕様・配置	交流 活動	まちづくり シンボル 多機能連携 アクセシビリティ
にぎわいとプライバシーの両立	• 現状の活動は、外から見られたくない活動のほうが多い	• ガラス張りでもカーテンを引くなどして、外から見えない使い方も可能な構造の③活動室	活動	アクセシビリティ インクルーシブ
周辺施設とのつながり	• 市総合庁舎からの人流を作る • 多方面からアクセスできる施設とする	• 市民が集まることのできる機能を、建物1階の市総合庁舎側に配置する • 諸室を点在させる	交流	多機能連携 インクルーシブ まちづくり アクセシビリティ
諸室の効率的な利用	• ②展示室：催事の規模に合わせて利用可能な構造としたい • ⑤楽屋：不使用時には会議室としての利用も見込める	• ②展示室：分割して複数団体が同時に使用可能に • ⑤楽屋：サービスゾーンとユーザーゾーンの境界をまたぐように配置	活動	アクセシビリティ 多機能連携 コストパフォーマンス
搬出入の利便性と安全性の確保	• ⑧搬出入口：トラック2-3台を取り回せる広さが必要 • 大ホールと小ホールでそれぞれ別個に⑧搬出入口を設けたい → 限られた敷地面積の中で、搬出入等のサービス側を優先するか、共用部等のユーザー側を優先するか	• ⑧搬出入口：広い空間を確保 • ユーザー側の安全性確保が、結果としてサービス側の使い勝手にもつながる →⑧搬出入口は分散させない方が良い	活動	アクセシビリティ

第４回検討会　ゾーニング検討　　振り返り資料（Bグループ）

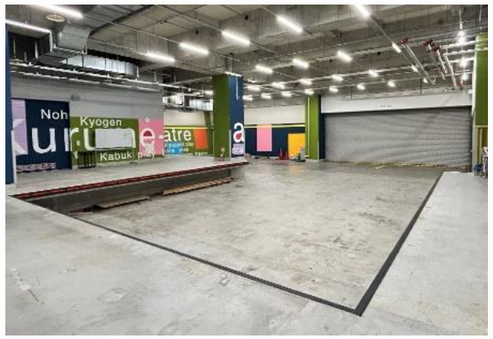
資料3-2
（P.2）

第３回検討会
ゆとりある屋外空間を設け
建物をコンパクトにまとめる

＋

第４回検討会
多方向からのアクセスと諸室の点在配置で
多様な活動があふれる
表情豊かな施設の顔を両得する

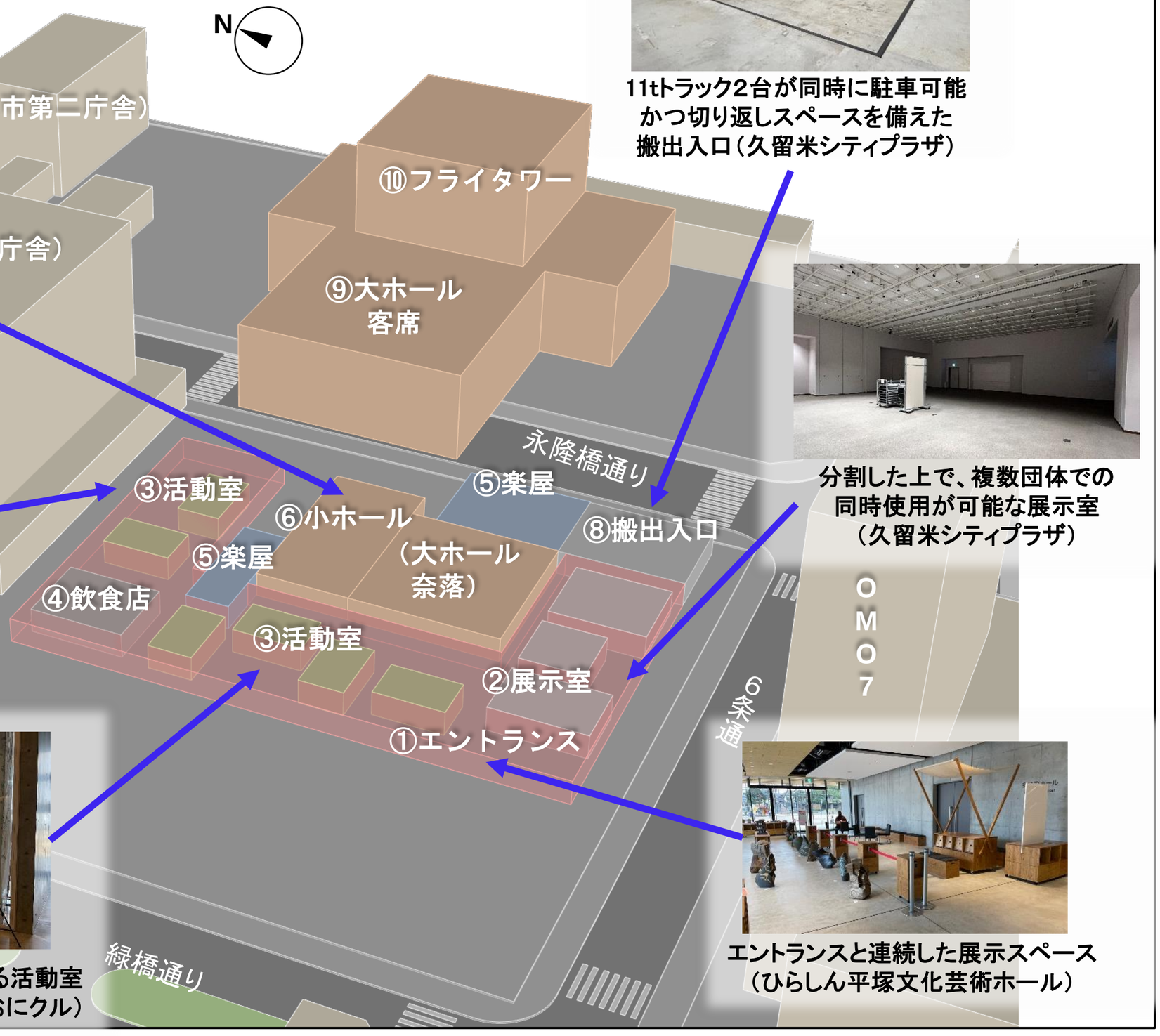
奥の壁を開放して、エントランスと
一体的に使用可能な小ホール
（ひらしん平塚文化芸術ホール）



11tトラック2台が同時に駐車可能
かつ切り返しスペースを備えた
搬出入口（久留米シティプラザ）

分割した上で、複数団体での
同時使用が可能な展示室
（久留米シティプラザ）

分散配置された活動室
（北上市文化交流センター さくらホール）

ガラス張りでカーテンを閉められる活動室
（茨木市文化・子育て複合施設 おにクル）

エントランスと連続した展示スペース
（ひらしん平塚文化芸術ホール）